

目指す姿に向けた中期経営計画の概要

中期経営計画2024 ～Be a Trailblazer～で成長投資と構造転換の両輪を回す

旭化成は、2022～2024年度の3カ年計画として掲げる中期経営計画2024 ～Be a Trailblazer～（現中計）に基づき、事業ポートフォリオの進化と経営基盤の強化を進めています。現中計は、2030年近傍における目指す姿に向けたファーストステップと位置付けられています。推進している成長投資や構造転換が今後着実に成果を創出することで、中期的な利益成長、投資効率の向上、さらにはカーボンニュートラルに向けたGHG排出量の削減を実現していきます。

- ヘルスケア領域、住宅領域を中心に積極的なM&Aを実施
- 業績が低迷している「戦略再構築事業」の改革を推進

- 成長投資の成果の刈り取りと、**1,000億円規模の構造転換の推進**
- 次の成長牽引事業である**GG10**へ重点的にリソースを投入
- 中期視点で**石油化学チェーン関連事業の構造転換**に着手

- GG10への投資が結実し、利益成長を牽引
- 石油化学チェーン関連事業の構造転換が進み、投資効率の向上と、カーボンニュートラルに向けたGHG排出量の削減が進展

長期展望

中期経営計画2024
～Be a Trailblazer～
2022～2024年度

Cs+ for Tomorrow 2021
2019～2021年度

旭化成が目指す姿

2つのサステナビリティの好循環

持続可能な社会への貢献
(グループビジョンの実現)



持続的な
企業価値向上

グループバリューの実践

旭化成は、「誠実」「挑戦」「創造」というグループバリューの実践によって、グループビジョンに掲げている「健康で快適な生活」と「環境との共生」を実現し、新たな価値の提供を通じて2つのサステナビリティの好循環を目指しています。

現中計における2つの実行指針

事業ポートフォリオの進化

経営基盤の強化

次の成長のための

挑戦的な投資

GG10に対して3年間累計で約7,000億円の投資を予定(意思決定ベース)

構造転換/
既存事業強化での

キャッシュ創出

現中計期間中に売上高で合計1,000億円以上の事業の構造転換を実行予定



財務KPI

		2024年度予想	2030年度近傍
利益成長	営業利益	1,800億円	4,000億円
資本効率	ROE	5.5%	15%～
	ROIC	4.5%	10%～
事業ポートフォリオ変革	営業利益のGG10比率	約50%	70%～

非財務KPI

デジタルプロフェッショナル人材数	2024年度	10倍(2021年度比)
高度専門職人数	目標	360名(2021年度:259名)
GG10関連の有効特許件数の割合	2030年度	50%超(2021年度:30%超)
Scope1とScope2のGHG排出量	近傍	30%以上削減(2013年度比)
環境貢献製品によるGHG削減貢献量		2倍以上(2020年度比)